

2020 年度事業 進捗報告書（資金分配団体）

- 提出日 : 2022年 10月 31日
- 事業名 : 社会的孤立解消のための事業
- 資金分配団体 : 特定非営利活動法人宮崎文化本舗

① 実績値

【資金支援】

アウトプット	指標	目標値	達成時期	現在の指標の達成状況	進捗状況 *
孤立者の生活状況を把握する	事業を通じて定期的な利用者把握とヒアリングやアンケートが実施されているか	公表されている資料の数字から一人以上孤立者を把握し、その属性や生活環境を把握できている	2022年3月 2023年3月 2024年3月 段階別に達成	資金分配団体において、実行団体各団体の孤立の把握状況を把握していくことで指標の達成を目指している、現時点では各分野の孤立者を定義し、把握に努めている状況である	2
実行団体と関係者によって、制度等の問題点が顕在化する	課題を顕在化した報告書や提言の数 関係各所と共有された課題の数	顕在化した課題を報告書や提言として、外部に向けて発信できている	2022年3月 2023年3月 2024年3月 毎年度確認	各実行団体が対象とする孤立者の課題の把握に努めており、現時点では外部に向けた発信はできていない	2

<p>実行団体と関係者によって孤立者に対する効果的な支援策が設計される</p>	<p>実行団体の孤立者に対する効果的な支援策が設計され、関係者と合意できている</p>	<p>関係者との対話の場が設定され、効果が図れる支援策が設計されている</p>	<p>2022年3月 2023年3月 2024年3月 段階別に達成</p>	<p>実行団体ごとに異なるところではあるが、団体によっては対象となる孤立者のグループをつなぐ場を設定し、効果的な支援につながる期待の持てる場ができつつある。孤立者を間接的に支援する団体においては、現在孤立者支援を行う団体をつなぐ場をより効果的なものとするために、アンケート調査を行うなどしている。 中山間地域における孤立者の孤立の解消を目指す団体においては、自治体などを絡めた地域の指標づくりをおこなっており、今回の中間報告を経てアウトカムの変更も計画している</p>	
<p>社会的孤立者が安心できる場づくりのために必要なスキルを実行団体が身に付ける</p>	<p>スキル習得のための研修等が実施された回数および時間 スキル習得のための研修の参加者数</p>	<p>社会的孤立者が安心できる場づくりのために必要なスキルを習得できている</p>	<p>2022年3月 2023年3月 2024年3月 段階別に達成</p>	<p>当休眠預金事業の事業審査から参加している委員により構成される支援委員会の委員をはじめ、外部メンターによる研修（アンケート設計研修、コーディネイター研修など）・ワークショップを複数回実施し、目標達成に努めている。</p>	<p>2</p>

孤立者や関係者の相互コミュニティが構築される場を整備し、運用の検証を行う	相互コミュニティに必要なツールや関係者、場の設定について具体的なツールや方法が特定されている	・相互コミュニティの場についての具体ていきなツールや方法が特定されており、活用されている。	2022年3月 2023年3月 2024年3月 段階別に達成	①ZOOMなどを活用し定期的な交流の場を設定した ②専用のウェブサイトを立て上げ、孤立者の支援を行う団体をつなぐ場を設定した。	2
先進事例の情報収集やノウハウの蓄積を行う	収集された先進事例件数 蓄積されたノウハウが掲載された報告書 ノウハウが発信された関係団体数	先進事例の情報収集やノウハウの蓄積・整理が行われている、それらが発信できている	2022年3月 2023年3月 2024年3月 段階別に達成	各実行団体において、メンターおよび支援委員会や、先進事例を持つ団体へのヒアリングを行うなど、情報集をおこない、月例の会議などにおいて分配団体が収集必要に応じて、各実行団体へ共有等を行った。	2
情報発信のためのチャンネルの開発と整備を行う	情報発信チャンネルの開発数 発信された情報量の変化	情報発信に必要なツールやスキルを身に付け、開発を行いそれらを活用できている	2022年3月 2023年3月 2024年3月 段階別に達成	休眠預金事業のウェブサイト立ち上げている。	2

【非資金的支援】

アウトプット	指標	目標値	達成時期	現在の指標の達成状況	進捗状況 *
<p>実行団体内のノウハウの蓄積と共有があり、団体の事業の効率や効果が向上する</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・蓄積されたノウハウを活用した事業計画や報告書の数 ・プロセスやプログラムをマニュアル化し整備した数 	<p>実行団体が、休眠事業で関わる団体をはじめとする様々な団体とネットワークを構築し、関係者をつなぐコーディネート実績がある。</p>	<p>2022年3月 2023年3月 2024年3月 段階別に達成</p>	<p>団体とも、事業を通じて組織基盤の強化につながるような、ノウハウを蓄積しつつある、しかしながら現時点ではそれをまだ取りまとめるなどした、報告書やマニュアルの作成には至っていない</p>	<p>2</p>
<p>事業の連携組織が増え、資金調達の可能性が高まる</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・恒常的に相談・情報交換できる団体の数 ・事業に関わる、関係団体の数 ・事業に関わる、関係団体の多様性 	<p>実行団体が、多様な団体と連携し、事業を行い、新たな資金調達方法を獲得している</p>	<p>2022年3月 2023年3月 2024年3月 段階別に達成</p>	<p>中間時点で、新たな資金調達に直接つながるような活動が行えている団体はないが、各団体とも関係団体は事業を通じて増えており、資金調達の可能性は上がっていると考ええる。</p>	<p>2</p>

<p>他団体や他セクターと連携し、新たな事業が生まれる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・恒常的に相談・情報交換できる団体の数 ・事業に関わる、関係団体の数 ・事業に関わる、関係団体の多様性 	<p>実行団体が、多彩団体と連携し、孤立者の減少に向けた新たな事業を開発・実施し効果を上げている</p>	<p>2022年3月 2023年3月 2024年3月 段階別に達成</p>	<p>①ホームホスピス宮崎 同じような孤立者を対象とする県外団体2団体、県内の医療的ケア児の家族会4団体</p> <p>②みやざき子ども文化センター 孤立者を支援する団体と子育てワンストップセンターの窓口となるウェブサイト『Co to Co』でつながり、それら県内の連携団体を訪問し、関係を強化していく</p> <p>③五ヶ瀬自然学校 事業において関係人口の地域共通の指標の設定を試みる、関係人口五ヶ瀬モデルの策定にあたり、地域の自治体や学校、公益団体や事業者など多様な団体関わっている。現在、10団体、約35人の個人と連携している。 ただいずれもまだ新たな事業の立上げまでは至っていない</p>	<p>2</p>
----------------------------------	---	--	---	--	----------

*進捗状況：1 計画より進んでいる、2 計画どおり進んでいる、3 計画より遅れている、4 その他

② 事業進捗に関する報告

1.事業計画に掲げた短期アウトカムの達成の見込み
2.概ね達成の見込み
2.アウトカムの状況
A：変更項目 <input type="checkbox"/> 変更なし <input type="checkbox"/> 短期アウトカムの内容 <input checked="" type="checkbox"/> 短期アウトカムの表現 <input type="checkbox"/> 短期アウトカムの指標 <input type="checkbox"/> アウトカムの目標値
5.新型コロナウイルス感染拡大に対して、事業活動を行う際に工夫した点
リモートを活用して月例会議・研修等を行った。
6. 実行団体の進捗に関する報告
3 団体ともに順調に進捗している。 中間評価においては、アウトカムの発現に向けて精度を上げていくために点検・検証を行い、 事業計画の改善を行っていきたい。

③ 広報（※任意）

- 1.メディア掲載（TV・ラジオ・新聞・雑誌・WEB等）
- 2.広報制作物等
- 3.報告書等

2020 年度事業 中間評価報告書（資金分配団体）

評価実施体制

内部／外部	評価担当分野	氏名	団体・役職
外部	データ分析・評価全般のアドバイス	伊藤 枝里子	特非) ソーシャルバリュージャパン 事務局長
外部	データ分析・評価全般のアドバイス	根岸 裕孝	宮崎大学 地域資源創成学部 教授
外部	データ分析・評価全般のアドバイス	荻上 健太郎	東京学芸大学 教育インキュベーション推進機構 准教授
内部	情報収集・分析	山内 研二	特非) 宮崎文化本舗 事業プログラムオフィサー
内部	情報収集・分析	名田 敬仁	特非) 宮崎文化本舗 事業プログラムオフィサー

A) 事業のアウトカムの進捗状況の評価

① 短期アウトカムの進捗状況

【資金支援】

アウトカムで捉える変化の主体	指標	目標値	達成時期	これまでの活動をとおして把握している変化・改善状況
これまで支援地域で把握されていなかった(実行団体の支援サービスを受けていないまたは知らない) 孤立者が発掘され、可視化されている	・発掘、可視化された孤立者数	初期値より実行団体が把握する、孤立者の数が増えている	2024/3/1	各実行団体ごとに、対象が異なっている ①ホームホスピス宮崎 医療的ケア児の家族の孤立解消に努める団体においては、相談カフェを実施し、草の根的に孤立者の発掘に努めることとしていたが、孤立者の環境から相談カフェなどに参加することがそもそも難しいという状況が浮き彫りとなり、孤立者が必然的にかかわる

				<p>病院などの上流から孤立者にかかわることで、孤立者の発掘を行い、より多くの孤立者へつながるよう改善を行った。</p> <p>②みやざき子ども文化センター 孤立者を支援する団体を支援することで間接的に孤立を解消使用する団体においては、事業を進めていく過程において、事業対象者の定義を改めて整理することをおこない、それにより活動を再定義するなど、事業の進め方を変更している</p> <p>③五ヶ瀬自然学校 関係人口の創出により中山間地域の孤立を目指す団体において位は、関係人口の定義をおこない、地域内で共有をすることで関係人口を明確化し、それを基により具体的に関係人口を増やし、孤立の解消を目指している、関係人口を創出する事業をコンテストを通してお行い、それにかかわる若者を孤立解消につなげるキーンゾーンとして積極的に取り込んでいくことに努めている</p>
<p>これまで把握されていなかった孤立者を発掘するための支援サービスの提供ができています</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・新たな孤立者を発掘につながるサービスの提供数 ・コミュニケーションを行う場の数 ・場の創出に向けた、受益者へのニーズの収集の質と量 	<p>各実行団体が実施している、既存のサービスおよび、その利用者数が増えている</p>	<p>2022/3/1 2023/3/1</p>	<p>①ホームホスピス宮崎 相談カフェ、ママランチ会、体験教室、医ケア児家族会の定例会</p> <p>②みやざき子ども文化センター 子育てワンストップセンターCot o Co の開設</p> <p>③五ヶ瀬自然学校 関係人口五ヶ瀬モデル策定委員会の実施 関係人口創出事業コンテストの実施</p>

【非資金的支援】

指標	目標状態	達成時期	これまでの活動をとおして把握している変化・改善状況
<p>実行団体の中間支援力の獲得を目指して、相談力・アドバイス力、コーディネイト力のスキルアップを行い、ネットワークを構築する</p>	<p>・実行団体が、休眠事業で関わる団体をはじめとする様々な団体とネットワークを構築し、関係者をつなぐコーディネイト実績がある。</p> <p>・実行団体に相談等を受ける窓口が現実もしくは仮想空間上にあり、相談対応業務をこなすことでアドバイスを行える状態となっている</p>	<p>2024/3/1</p>	<p>①ホームホスピス宮崎 相談カフェの実施から始まり、その課題をクリアしていく過程で、医療的ケア児の家族会をはじめとして、県内の医療的ケア児にかかわる団体とのネットワークを構築している</p> <p>②みやざき子ども文化センター 実行団体の事業を行う過程で、定例のミーティングをはじめ、団体内での情報の共有の仕組みなどを見直しを行うなど、実行団体内部にポジティブな変化が生まれるなど、組織基盤の強化につながる流れが生まれた。また団体としてアンケートなどをはじめ、孤立者を支援する多くの団体とつながりができている。子育てワンストップセンターとしてウェブサイトを開設しており、そこで相談対応を受けることはできるようになった。</p> <p>② 五ヶ瀬自然学校 中間支援を行うにあたってはまだ不十分ではあるが、事業を通して事務処理、プレゼン、企画立案及びその実行、ミーティングのファシリテーション、等における能力が上がった。</p>

<p>実行団体が活動を継続していくための収益化に向けたビジネスモデルの構築やファンドレイズのプランニングができている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ネットワークができており、必要なメンターとのつながりを活かし、ビジネスモデルを構築できる状態となっている ・ファンドレイズ用のページのPV数が把握できており、その数が可視化されている。またその数が初期値より20%増えている 	<p>2024/3/1</p>	<p>各実行団体とも、今現在のところ、ビジネスモデルの構築やファンドレイズのプランニングまでは至っていない。</p> <p>しかしながら、休眠預金事業を通して、実行団体支援委員会をはじめ、様々なメンターとのつながりができてきており、これをファンドレイズにつないでいきたい。</p>
--	---	-----------------	--



③ アウトカムの分析「⑧アウトカムの達成度」(※任意)

評価小項目	評価小項目の評価結果	評価結果の考察
<p>各アウトプットの分析を行うことで、アウトカム達成につながるか検証する</p>	<p>分配団体のアウトプットがアウトカムにつながるかを検証した。</p>	<p>分配団体のプット、カムの分析だけでなく、実行団体の成果の総和（車の両輪的に）でもあるので、相互の成果を分析しつつ、最終的なアウトカムの発現につながるかを検証する必要がある</p>



事業のアウトカムの進捗評価	評価結果の考察
<p>事業のアウトカムの進捗の程度は、事業終了時には</p> <p><input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値を上回っての達成の見込みがある</p> <p><input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値を達成の見込みがある</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値はおおむね達成できる見込みがある</p> <p><input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値の達成は不透明である</p> <p><input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値の達成は難しい</p> <p>と自己評価する</p>	<p>各団体ともアウトカムの達成に向けて、順調に進んでいると考える。アウトカムを達成するために、中間報告を経て、事業において改善すべき点を改善し、各事業のアウトカムをより確実に発現させ、分配団体としてのアウトカムの達成を目指したい。</p>

B) 事業の改善状況の評価

① 事業の実施過程・事業改善に関する評価

評価項目	評価小項目	評価結果	考察
実施状況の適切性	活動およびアウトプットが適切に設定され、進捗状況を把握できているかどうか。また、成果を分析できているかどうか。	把握できている。	アウトプットを見直していく中で、適切なもの・不適切なものがあることが分かった。実行団体とともに積み上げていくアウトプットであれば、定期的な報告により成果を把握することができる。アウトプットの内容によっては、実行団体によって計ることができない項目があることも分かった。アウトカムが発現に向けて、より適切なアウトプットの設定が必要であることが分かった。
実施をとおした活動の改善、知見の共有	これまでの事業遂行の中で、資金分配団体が得た情報・ノウハウを各実行団体と共有し有効活用ができていますか	各実行団体に、情報の共有・ノウハウの共有ができており、有効活用されている	実行団体に情報・ノウハウの共有について実行団体からのヒアリングを行った。その結果概ね、情報共有等の機会・方法は適正であるとの回答であった。また、実行団体とのヒアリングに関する振り返りを通じて必要な情報収集やメンター調整等を行う。
組織基盤強化・環境整備	事業の運営管理体制に問題はないか	改善の必要があることが分かった。	①内部の連絡や情報共有の方法に問題はないか。適切な情報共有がされているか ②月次日報作成や経理帳簿作成のオペレーションに問題はないか ③実行団体に対する連絡や、実行団体からの相談、報告の手法に問題はないか。適切に行われているか ④JANPIA との連絡や相談、打ち合わせ等について適切かどうか 各項目について検証し、適切に実施されているか検証を行った。②について人員の不足による、作業の遅れがありオペレーションに問題があったことを確

			<p>認した。事業遂行がスムーズになるよう改善を行う。</p> <p>①③については、進捗管理や情報共有など適切に行われていることが分かった。</p> <p>④については、担当 PO よりコメントを頂き適切に実施されていることが分かった。</p>
--	--	--	---

② 短期アウトカムの状態の変化・改善に貢献した要因や事例

・審査時から事業にかかわっていただく、実行団体支援委員会が、継続的に様々な形で実行団体を支援いただいたことは貢献要因となった。実際のアドバイザーとしてしっかりと関わっていただいたり、支援委員の力添えが、町への政策提言につながるなどのケースがあった。出口戦略として、休眠預金事業終了後の継続に事業を進めていくうえでも支援委員会とのつながりを活用することで、より現実的になったと思われる。

③ 事前評価時には想定していなかった成果

・ホームホスピス宮崎の事業において医療的ケア児の家族を相談カフェなどを通して草の根的に支援を行っていく必要があることを事前評価において明らかにしたが、様々な理由からカフェに足を運んでもらうことが難しいことが事業を通じてわかった。この結果からもっと上流(病院など孤立者が初めに通る場所等)から孤立者にアプローチが必要であることと、そのための精度の問題点などが明らかとなり、これを行政に提言としてアプローチしていくこととなった。また、今回の事業を通じて今までばらばらで活動していた県内の家族会をつないだネットワークをくみ上げた事は想定してなかった成果となった



④ 事業計画（資金分配団体）の改善の必要性の確認

- 社会課題のニーズに事業計画の内容は合致している
- 受益者や対象グループのニーズに事業計画の内容は合致している
- 事業計画に記載している活動は、アウトプット⇒アウトカムへのつながりが実際に確認できている
- 残りの期間の資金配分・人員体制・スケジュールは活動を円滑に行えるよう計画されている
- 短期アウトカム指標は、事後評価時に測定し、達成度を評価することが可能な内容になっている



事業の改善状況の評価結果	評価結果の考察
<p>残りの事業期間で、事業が短期アウトカムを達成するために、</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 事業計画は適切に改善されたといえる <input checked="" type="checkbox"/> 事業計画を適切に改善する見込みがある <input type="checkbox"/> 事業計画の改善について、課題が残っていると自己評価する 	<p>アウトプットの設定において、書きぶりとして、「資金分配団体の目線」か「実行団体の目線（成果）」か、混在している部分があり、非常に分かりにくい設定になっている。中間評価を通じて、アウトカムの発現につながるアウトプットの設定を行っていきたい。また、中間評価を経て、実行団体の事業にも変化が出る部分があるため、その部分についても反映した事業計画としていく。</p>

⑤ 中間評価結果を踏まえて今後注力したいまたは早急に取り組みたい事項をお聞かせください。

中間評価を経て、事業に不足点が分配団体、実行団体とも見えているため、それを反映させた事業計画の策定に取り組みたい。
また、実行団体支援委員会への情報共有の機会を増やし、休眠預金事業の宮崎県民への露出を高めて事業への理解を深めていきたい。

添付資料

活動の写真（画像データは1枚2MG以下、3～4枚程度）